

第5回 日本在宅医療連合学会大会

ラグビーは強さの象徴の様に受け止められますが、チームの中でのお互いを信頼し尊敬し合う、one for all, all for one の関係は、人としての基本的な関係、在宅医療にも通じる概念です。2019年、日本代表は決勝トーナメント進出という歴史を作りました。今年はフランス大会があり、さらなる前進が期待されます。元、日本代表大野均氏と、ラグビージャーナリストの村上晃一氏を迎え、ラグビーの魅力についてお話しいたします。



ゲスト

大野 均

ラグビー元日本代表選手

ゲスト

村上 晃一

ラグビージャーナリスト



井手口 直子

第5回日本在宅医療連合学会大会 副大会長
帝京平成大学薬学部教授

【第1部】
日本はどのようにして強くなったのか？
ラグビーは地球を救う！

【第2部】
様々なイノベーションをおこす
難病は地球を救う！

難病患者さんの生きやすい社会は、みんなの生きやすさに繋がります。そんな社会を実現させるためのテクノロジーのちからについて、分身ロボット OriHime の開発者である吉藤オリイさん、視線入力装置を介したゲームを通じ障がいの高度なお子さんの生きるを支える工学者の伊藤史人さんに、語って頂きます。

ゲスト

吉藤 オリイ

株式会社オリイ研究所 CEO



ゲスト

伊藤 史人

島根大学総合理工学研究科



司会

川口 有美子

ノンフィクション作家、さくら会



中島 孝

第5回日本在宅医療連合学会大会 大会長
国立病院機構新潟病院院長

総合司会

町 亞聖

フリーアナウンサー



One for all
All for one

市民公開講座

ラグビーと難病

地球を救うサステイナブルな強さ

Image by Freepik

2023年6月25日① 13:30 - 15:30

朱鷺メッセ 1階 展示ホールB「第1会場」

参加費 無料

後援 新潟県ラグビーフットボール協会、株式会社新潟放送他

【問い合わせ先】 日本コンベンションサービス株式会社 東北支社内
〒980-0824 仙台市青葉区支倉町 4-34 丸金ビル 6 階
E-mail: 5jahcm@convention.co.jp

申込期限 2023年6月20日(火) 17:00 予定

※当日空席がある場合には、直接会場へお越しいただいても入場できます。

(事前申込者優先)

※Web 配信やオンデマンド配信も予定しています。

※尚、市民公開講座参加者は 12:30 ~ 13:30 まで第一会場隣の企業展示コーナー等への入場・閲覧・休息が可能です。他の会場には立ち入ることはできません。

申込サイト

<https://forms.office.com/r/HDiUprt4LB>



第5回 日本在宅医療連合学会大会

市民公開講座 ラグビーと難病

登壇者の紹介

第1部 ラグビーは地球を救う！ 日本はどうして強くなったのか？

ゲスト **大野 均 氏** ラグビー元日本代表選手

1978年生まれ 福島県郡山市出身。高校までは野球部に所属。進学した日本大学工学部でラグビーを始める。2001年東芝プレイブルーパス入団。2004年日本代表初選出。2007年、2011年、2015年と3大会のワールドカップに出場。2015年大会では南アフリカ戦勝利に貢献。13年間日本代表でプレーし、国際試合98試合出場は日本代表歴代最多。現在、東芝プレイブルーパス東京アンバサダーに就任。

ゲスト **村上 晃一 氏** ラグビージャーナリスト

1965年京都市生まれ。京都府立鴨沂高校から大阪体育大学でラグビーのポジションは、センター、フルバック。87年ベースボール・マガジン社入社、ラグビーマガジン編集部勤務し、90～97年同誌編集長。98年からラグビージャーナリストとして、スポーツ専門局JSPORTSでラグビー解説を継続中。1999年から2019年の6回のラグビーワールドカップで現地コメンテーターを務めた。ラグビーシンポジウム、トークイベントなどの進行役多数。

井手口 直子 氏 第5回日本在宅医療連合学会大会 副大会長、帝京平成大学薬学部教授

第2部 難病は地球を救う！ 様々なイノベーションをおこす

ゲスト **吉藤 オリイ 氏** 株式会社オリイ研究所CEO

自身の不登校時に感じた「孤独」から、人生のミッションを「孤独の解消」とし、分身ロボットOriHimeを開発。2012年に株式会社オリイ研究所設立。ALSの患者とともに視線入力でOriHimeを操作するOriHime eyeや、寝たきりでも仲間とともに働ける「分身ロボットカフェDAWN」を常設店として、開店した。難病勉強会や難病の人も参加できるOriHimeによるスポーツ大会、音楽、開発イベントなどを多数実施している。

ゲスト **伊藤 史人 氏** 島根大学総合理工学研究所

一橋大学情報基盤センター助教を経て2014年から現職。専門は医用画像処理および福祉情報工学。近年は、重度障害児・者向けアプリケーションの開発と普及を進めており、そのうち視線入力技術を活用した重度障害児支援システムEyeMoT(アイモット)は、全国のほとんどの支援学校で導入されている。パリアフリーマップアプリWheeLog!の最高技術責任者。2017年、日本賞(クリエイティブ・フロンティア部門)最優秀賞受賞 ほか。

司会 **川口 有美子 氏** ノンフィクション作家、さくら会

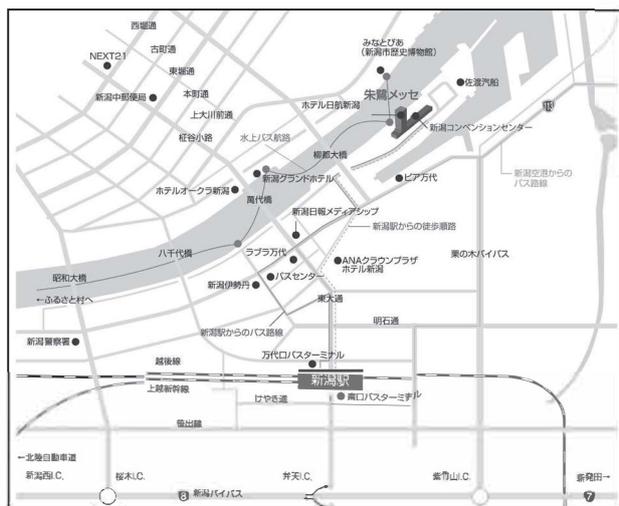
ALS患者と家族の葛藤を描いた「逝かない身体—ALS的の日常を生きる」(医学書院)で2010年第41回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。2013年立命館大学大学院先端総合学術研究科博士(学術)課程修了。研究領域は難病や障害などで生き難さを抱える人々の政策と倫理。全国各地の神経筋疾患患者の在宅24時間365日介護保障を推進し、喀痰吸引等をおこなうヘルパーの養成を支援してきた。

中島 孝 氏 第5回日本在宅医療連合学会大会 大会長、国立病院機構新潟病院院長

総合司会 **町 亜聖 氏** フリーアナウンサー、元ヤングケアラー

1995(平成7)年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、活躍の場を報道局に移し、報道キャスター、厚生労働省担当記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。2011(平成23)年にフリーに転身。脳障害のため車椅子の生活を送っていた母と過ごした10年の日々、そして母と父をがんで亡くした経験から医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動を続ける。

会場案内図



朱鷺メッセ

新潟市中央区万代島 6 番 1 号
1 階 展示ホール B 「第 1 会場」

新潟駅より

路線バス：約 15 分

タクシー：約 5 分

徒歩：約 20 分

会場へのアクセスは、
こちらからご確認ください→

